

異国のふるさとから



W・モラエスと徳島

[徳島県]

遠い故郷を思いながら、最愛の人たちへの追慕が徳島に刻まれた。

「眉の如雲居に見ゆる阿波の山…」万葉集にも詠まれる徳島の母なる山、眉山。いまから一世紀近く前にその山裾の地でひっそりと75年の人生を終えたひとりの外国人がいる。ポルトガルリスボン生まれ、海軍士官を経て、外交官となり、神戸で総領事を務めたヴェンセスラウ・デ・モラエスだ。

ル領事館の開設を機に副領事として神戸に赴任。その功績は、神戸市中心部のフラワーロードに面した東遊園地にあるモラエス像としていまも讃えられている。モラエスほど教養な運命を辿った人物も稀だ。神戸時代に出会った芸者のおヨネ（福本ヨネ）と結婚し、おヨネの故郷だった徳島を訪れる。明治45（1912）年におヨネが亡くなったのをきっかけに、翌年職を辞して引いたために徳島に移住。ひとり残されたモ



神戸の東遊園地に建つモラエス像。

ラエスの世話をするおヨネの姪コハル（斎藤コハル）と暮らすことになるが、そのコハルにも先立たれてしまう。それまでもモラエスは長年にわたり、母国の新聞に日本の政治や外交、さらに文化までを紹介している。同時代、ギリシャから島根県に渡り執筆活動したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とよく比べられるが、海外に日本文化を発信した功績は、後世高い評価を受けている。愛するふたりの女性との悲しい別れも『おヨネとコハル』『徳島の盆踊り』など多数の著作になっている。

眉山の麓にある阿波おどり会館を起点に、モラエスのゆかりの地を訪ねよう。クルマをとめ、眉山ロープウェイで空中散歩を楽しみ、徳島市内を一望するのもいい。会館に隣接する寺町界隈には墓所があり、かつての住居跡が残る「モラエス通り」と呼ばれるエリアもある。ひとり住まいの当時のモラエスにとつて、徳島での暮らしはけっして楽ではなかっただろう。顎ひげを伸ばし、180センチ以上の長身は、色メガネで見られたことだろう。母国ポルトガルから遥か彼方、異国のふるさとになった地を散策しながら「孤愁（サウダーデ）の人」といわれたモラエスの思いを辿りたい。



会館前にはモニュメントが建つ。

阿波おどり会館を起点に散策するのがいい。



眉山山頂には遠くポルトガルを望むモラエスがいる。

眉山山頂にはクルマでも行けるが、ロープウェイで上る方法がある。ゴンドラから絶景を楽しみながら片道約6分の空のミニトリップだ。山頂には遊歩道が整備され、ハイキング気分を楽しめる。故郷ポルトガルの方角を眺めるモラエス像が建っている。

眉山ロープウェイ山麓駅(阿波おどり会館内)
徳島市新町橋2-20 ☎088-652-3617
ロープウェイ運行/9:00~21:00
(※11月~3月は17:30まで)※延長運行有



潮音寺にはモラエスを挟んでおヨネとコハルが仲良く並ぶ。

阿波おどり会館のすぐ北側、寺町の入り口に当たる潮音寺に墓がある。中央がモラエス、右がおヨネ、左がコハル。徳島で過ごしたひと時の幸せが偲ばれる。

潮音寺 徳島市西山手町1-1 ☎088-656-1835



静かな住宅街にある「モラエス通り」を歩く。



阿波おどり会館南側の伊賀町一帯は、かつてモラエスが住んだ長屋があり、「モラエス通り」と呼ばれる。住宅街片隅に旧居跡を示す銘板や近隣の新町小学校内にモラエスの胸像が建つ。モラエスも散策に訪れたであろう瑞巖寺もある。時間にゆとりがあるならぶらりと歩きたい。

モラエス旧居跡 徳島市伊賀町3



モラエスが愛したふたつの徳島銘菓は昔ながらの懐かしさ。

日の出楼の「和布羊羹」



創業は嘉永5（1852）年の老舗。モラエスは「和布羊羹」を好み、おヨネとコハルの命日には「紅羊羹」を墓前に供えたとか。ポルトガルワインを使った「赤ワイン羊羹」もある。徳島市二軒屋町1-8 ☎088-622-6775、9:00~18:00（日は13:00まで）、水休、P有

和田乃屋本店の「滝のやき餅」



阿波徳島藩の御用菓子として400年の伝統を受け継ぐ。モラエスが散歩の途中に立ち寄り、食べたという「滝のやき餅」は、小豆を名水の錦竜水で炊き上げた餡を使い、焼き立てを食べられる。眉山山頂に向かう大滝山登山口にある。



庭にはモラエスが植えたという「黄花垂麻（キバナアマ）」の花が11月から3月初旬まで咲く。



徳島市眉山町大滝山5-3 ☎088-652-8414、10:00~17:00、木休

静けさと名水に手を合わす春日神社。



眉山を背に奈良の春日大社の分社として創建された。境内には眉山湧き水のひとつである「春日水」がある。寺町の中でも風格ある佇まいを誇る。モラエスが辿った道にある。

春日神社 徳島市眉山町大滝山1 ☎088-622-5733



ヴェンセスラウ・デ・モラエス

安政元(1854)年~昭和4(1929)年

ポルトガルのリスボン生まれ。外交官、文筆家。日本文化を海外に紹介する。神戸で総領事を務めた後、妻おヨネの故郷徳島に渡り生涯を送る。

徳島県立文学書道館



モラエスはじめ、賀川豊彦、海野十三など徳島県ゆかりの文学者と名筆たちを紹介している。瀬戸内寂聴記念室も設置。

徳島市中前川町2-22-1 ☎088-625-7485 9:30~17:00、月休、P有

「素晴らしい表現力を持つモラエス」

モラエスの作品には豊かな感受性による繊細な表現があります。ぜひ、一冊手に取ってください。

館長 富永 正志 さん



読みたい一冊

日本文学、日本人の観察記、徳島の風物や文化考、身近の雑記までを取めた日本随想記。(公財)徳島県文化振興財団・県立文学書道館発行。



モラエス展示場(徳島市中央公民館3F)



徳島での足跡とともに作品、関連資料を展示するほか、遺品のレプリカで仕事場を再現。

徳島市徳島町城内2-1 ☎088-621-5232 (徳島市観光課)、10:00~16:00、火休、P有

ひと休みトーク

Tabi no Bookmark

日本語になったポルトガル語。

鉄砲の伝来、キリスト教の布教など、ポルトガルと古くから交流があった日本には、ポルトガル語を起源にする日本語が数多い。

- 有名どころでは
- 天ぷら(tempero=調味料・味付け)
- カステラ(castelo=城)
- バッテリー(bateira=小舟)
- メリヤス(meias=靴下)
- かるた(carda=カード・手紙)

ほかにもブランコ、カボチャ、おんぶ、ピンキリもポルトガル語が語源だ。